

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成30年5月28日
【事業年度】	第57期（自平成29年3月1日至平成30年2月28日）
【会社名】	株式会社ジュンテンドー
【英訳名】	JUNTENDO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 飯塚 正
【本店の所在の場所】	島根県益田市下本郷町206番地5
【電話番号】	0856-24-2400（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 松浦 誠
【最寄りの連絡場所】	島根県益田市下本郷町206番地5
【電話番号】	0856-24-2400（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 松浦 誠
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成26年 2月	平成27年 2月	平成28年 2月	平成29年 2月	平成30年 2月
売上高及び営業収入 (千円)	44,848,285	44,218,106	43,904,347	44,078,181	43,924,825
経常利益 (千円)	129,962	546,308	576,792	477,167	349,631
当期純利益又は 当期純損失 ( ) (千円)	220,692	176,285	241,133	238,786	206,920
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	4,224,255	4,224,255	4,224,255	4,224,255	4,224,255
発行済株式総数 (株)	20,827,911	20,827,911	20,827,911	8,331,164	8,331,164
純資産額 (千円)	10,313,757	10,476,551	10,396,695	10,615,731	10,744,833
総資産額 (千円)	33,524,934	33,853,101	34,082,730	34,182,971	34,357,870
1株当たり純資産額 (円)	511.09	519.29	1,288.84	1,316.08	1,332.16
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	2.50 (1.25)	2.50 (1.25)	3.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額 ( ) (円)	10.93	8.74	29.89	29.60	25.65
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.8	30.9	30.5	31.1	31.3
自己資本利益率 (%)	-	1.70	2.31	2.27	1.94
株価収益率 (倍)	-	19.57	11.21	20.17	34.81
配当性向 (%)	-	28.61	25.09	33.78	38.98
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,504,621	2,009,716	366,675	1,405,065	946,427
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	396,082	558,800	1,703,701	890,820	547,588
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,010,893	848,499	965,209	407,516	539,670
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	751,888	1,354,304	982,488	1,089,216	948,386
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	683 (880)	659 (878)	645 (894)	638 (881)	638 (856)

(注) 1 「売上高及び営業収入」には、消費税等は含まれておりません。

2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がありませんので記載しておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第53期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5 従業員数は、正社員(出向派遣者を除き、出向受入者を含む)の期末就業人員を従業員数とし、契約社員、嘱託社員等の有期契約社員及びパートタイマー(1日8時間換算)の年間平均人員の合計を臨時雇用者数として記載しております。

6 平成28年9月1日付で、普通株式について2.5株を1株の割合で株式併合を行ったため、第55期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、第55期の1株当たり配当額については、当該株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

## 2【沿革】

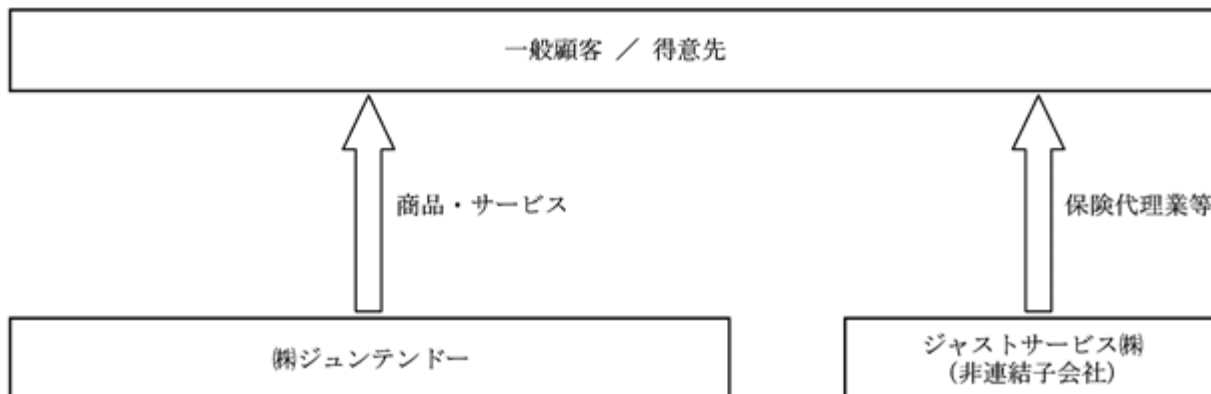
年月	概要
明治27年10月	島根県美濃郡益田町（現益田市）において現代表取締役社長飯塚正の曾祖父飯塚文市が順天堂薬局を創立。医薬品販売業を開始。
昭和23年6月	有限会社に改組。商号を有限会社飯塚順天堂駅前薬局に変更。
昭和28年2月	有限会社飯塚順天堂駅前薬局の商号を有限会社飯塚順天堂薬局に変更。
昭和37年4月	スーパーマーケット順天堂を開業。
昭和37年11月	有限会社飯塚順天堂薬局の商号を有限会社順天堂に変更。
昭和44年9月	島根県益田市にハウジングランド順天堂駅前店を当社の第1号店として開店。
昭和45年1月	スーパーマーケットを閉鎖し、テナントの家庭用品販売業「有限会社まるぶん」を吸収合併。
昭和45年8月	有限会社順天堂の薬局部門として島根県益田市に順天堂薬品益田店開店。
昭和45年12月	島根県益田市に順天堂土地住宅株式会社を設立。
昭和50年8月	順天堂土地住宅株式会社を順天堂薬品株式会社に商号変更し、有限会社順天堂の薬局部門を吸収。
昭和51年6月	島根県松江に順天堂商事株式会社を設立。
昭和52年11月	有限会社順天堂を株式会社順天堂に変更。 本店所在地 益田市東町9番16号。家庭用品、園芸用品、DIY用品、レジャー用品、文具、家具、雑貨等の販売を主たる営業目的とする。
昭和55年4月	小型店舗（500㎡未満型店舗 当社呼称150坪型店舗）として山口県に美祿店を開店。新設店舗の主力を150坪型に変更。
昭和57年7月	株式会社順天堂の本社を益田市下本郷町179番地1に移転。
昭和62年3月	株式会社順天堂の商号を株式会社ジュンテンドーに変更。
昭和62年6月	順天堂薬品株式会社の商号をジャスト商事株式会社に変更。
昭和62年9月	ジャスト商事株式会社の書籍販売部門として島根県大田市にブックセンタージャスト大田店開店。
昭和63年7月	株式会社ジュンテンドーの本社を益田市下本郷町206番地5（現・本社所在場所）に移転。
平成元年3月	広島証券取引所に株式を上場。
平成元年12月	カー用品専門のイエローハット事業に進出。
平成3年6月	大阪証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成11年2月	株式会社ジュンテンドーの営業本部を広島県安芸郡へ移転開設。
平成12年3月	東京証券取引所市場第二部に上場。（広島証券取引所と東京証券取引所の合併による）
平成14年11月	広島トランスファーセンター（広島県東広島市）の開設により、ロジスティクスの整備が完了。（平成12年2月兵庫県三木市に三木トランスファーセンターを開設。三木センター、広島センターの運営は順天堂商事株式会社）
平成15年1月	全店にTC（通過型）物流による商品供給を開始。
平成17年9月	株式会社ジュンテンドーが順天堂商事株式会社を吸収合併。
平成18年4月	株式会社ジュンテンドーのホームセンター事業において、ジュンテンドーポイントカードの導入開始。
平成20年2月	大阪証券取引所市場第二部について、上場廃止の申請を行い上場廃止。
平成23年5月	保険代理業等を営むジャストサービス株式会社を設立。
平成23年9月	株式会社ジュンテンドーがジャスト商事株式会社を吸収合併。
平成29年3月	カー用品専門のイエローハット事業を株式会社イエローハット及び株式会社山陰イエローハットに譲渡。

### 3【事業の内容】

当社グループは、主にホームセンター事業を営む当社及び非連結子会社1社で構成されております。

なお、当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



### 4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

### 5【従業員の状況】

#### (1) 提出会社の状況

平成30年2月28日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
638(856)	41.5	18.1	4,286

(注) 1 従業員数は、正社員（正社員に準ずる者を含む）の期末在籍者数から、出向派遣者を除き、出向受入者を加えた就業人員を記載しております。

2 従業員数欄の（ ）内に臨時雇用者数を外数で記載しております。臨時雇用者数は、契約社員、嘱託社員等の有期契約社員及びパートタイマー（1日8時間換算）の年間平均人員の合計を記載しております。

3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

4 当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

#### (2) 労働組合の状況

U A ゼンセンジュンテンドー労働組合が結成されており、平成30年2月28日現在における組合員数は1,761名であります。労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当事業年度におきましては、好調な企業業績と人手不足を背景とした雇用・所得環境の改善が進む中、景気は引き続き回復基調にありました。個人消費におきましては、雇用・所得環境の改善等の要因により、消費者マインドは持ち直しの動きが見られましたが、所得の上昇ペースが緩慢であること等から、本格的な消費拡大には至らず、力強さを欠く状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社におきましては、「地方都市、中山間地、離島のなくてはならないインフラになるう」の経営方針のもと、「ホームセンターは、農業、園芸、資材、金物、工具、ワーキングの専門店である」の基軸にもついた商品施策に継続して取り組みましたが、9月以降の当社出店エリアへの度重なる台風の接近による天候不順が大きく影響し、通期の営業収益（売上高及び営業収入）は当事業年度初めに事業譲渡した「イエローハット」FC事業の減収分等を補うことができず、前事業年度を下回りました。しかしながら、園芸農業・資材工具部門は堅調に推移し、当社の基幹部門として成長を続け、ホームセンター事業の売上高は前事業年度を上回りました。また、価格競争力の強化等の要因により、営業利益、経常利益、当期純利益は前事業年度より減少しました。

以上の結果、当事業年度の営業収益（売上高及び営業収入）は439億2千4百万円で、前年度比1億5千3百万円（0.3%）の減少となりました。うち売上高は、423億3千7百万円で、前年度比1億2千7百万円（0.3%）の減少となり、営業収入は15億8千6百万円で、前年度比2千6百万円（1.6%）の減少となりました。

商品別売上高では、家庭雑貨・家庭電器が124億1千7百万円で前年度比1億6千3百万円の減少、園芸農業・資材工具が198億5千万円で前年度比2億7千7百万円の増加、趣味・嗜好が72億8千万円で前年度比3億5百万円の増加、その他の売上が9百万円で前年度比微増、関連事業が27億8千万円で前年度比5億4千7百万円の減少となりました。

損益面におきましては、営業利益は4億1千1百万円で、前年度比1億6千1百万円（28.2%）の減少、経常利益は3億4千9百万円で、前年度比1億2千7百万円（26.7%）の減少となりました。また、当期純利益は2億6百万円で、前年度比3千1百万円（13.3%）の減少となりました。

店舗につきましては、ホームセンター1店を開店し、ホームセンター2店、ドラッグストア1店を閉店いたしました。また、イエローハット4店を事業譲渡し、ホームセンター1店を増床、全面改装1店を実施しました。これにより、当事業年度末の店舗数は142店（ホームセンター131店、ドラッグストア7店、ブックセンター4店）となり、前年度末比6店の減少となりました。また、売場面積は253,760平方メートルで、前年度末比1,637平方メートル（0.6%）の減少となりました。

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により増加した資金を、主として店舗建設等の投資活動と長期借入金の返済に充当し、前事業年度末に比べ1億4千万円減少の9億4千8百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における営業活動による資金の増加は9億4千6百万円（前事業年度は14億5百万円の増加）となりました。

主な要因は、資金収入の税引前当期純利益3億2千5百万円、非資金費用の減価償却費10億1千7百万円及び減損損失4千3百万円等に対して、資金支出のたな卸資産の増加2億6千6百万円等によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における投資活動により支出した資金は5億4千7百万円（前事業年度は8億9千万円の支出）となりました。

主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出9億7千9百万円等によるものであります。

支出の主な内容は、店舗の新規出店、増床及び改装等によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における財務活動による資金の減少は5億3千9百万円（前事業年度は4億7百万円の支出）となりました。

主な要因は、長期借入金19億円の調達に対し、長期借入金23億6千1百万円、リース債務5千5百万円、割賦債務4千2百万円の返済及び配当金8千万円等の支出によるものであります。

## 2【仕入及び販売の状況】

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであり、部門別に示すと次のとおりであります。

### (1) 仕入実績

部門別	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)		
	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)
家庭雑貨・家庭電器	8,786,969	29.0	97.9
園芸農業・資材工具	13,967,085	46.0	102.0
趣味・嗜好	5,461,341	18.0	106.2
その他	5,177	0.0	99.3
ホームセンター事業	28,220,573	93.0	101.4
関連事業	2,136,789	7.0	88.5
合計	30,357,363	100.0	100.4

### (2) 販売実績

部門別	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)			
	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)	
売上高	家庭雑貨・家庭電器	12,417,200	28.3	98.7
	園芸農業・資材工具	19,850,351	45.2	101.4
	趣味・嗜好	7,280,864	16.6	104.4
	その他	9,042	0.0	100.5
	ホームセンター事業	39,557,459	90.1	101.1
	関連事業	2,780,433	6.3	83.5
	売上高合計	42,337,892	96.4	99.7
営業収入	ホームセンター事業	1,579,967	3.6	98.7
	関連事業	6,965	0.0	57.0
	営業収入合計	1,586,932	3.6	98.4
売上高及び営業収入合計		43,924,825	100.0	99.7

(注) 1 ホームセンター事業の各部門の内容は次のとおりであります。

家庭雑貨・家庭電器 台所用品、家庭用品、日用消耗品、家電製品、寝装・インテリア等  
園芸農業・資材工具 家庭園芸用品、農業用品、工具・建築金物、塗料・作業用品等  
趣味・嗜好 ペット用品、オフィス・店舗用品等  
その他 消耗品等

2 関連事業の内容は次のとおりであります。

書籍・CD・DVD、ドラッグ等

3 仕入実績の金額は、仕入価格によっております。

4 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 県別売上状況

部門別		当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)					
		金額 (千円)	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期末 店舗数 (店)	店舗数 前期比増減 (店)	
売上高	島根県	7,076,233	16.1	100.6	17	1	
	鳥取県	2,885,031	6.6	107.9	12	1	
	山口県	6,122,451	13.9	98.3	26	1	
	岡山県	4,564,061	10.4	100.2	14	-	
	広島県	11,498,046	26.2	100.9	32	-	
	兵庫県	3,611,026	8.2	102.6	16	-	
	京都府	1,884,950	4.3	102.2	5	-	
	和歌山県	925,064	2.1	101.5	5	-	
	奈良県	611,690	1.4	100.2	3	-	
	三重県	369,858	0.9	101.8	1	-	
	その他	9,042	0.0	100.5	-	-	
	ホームセンター事業合計		39,557,459	90.1	101.1	131	1
	関連事業		2,780,433	6.3	83.5	11	5
売上高合計		42,337,892	96.4	99.7	142	6	
営業収入	ホームセンター事業	1,579,967	3.6	98.7	-	-	
	関連事業	6,965	0.0	57.0	-	-	
	営業収入合計	1,586,932	3.6	98.4	-	-	
売上高及び営業収入合計		43,924,825	100.0	99.7	-	-	

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、「関わる人々の幸せに貢献できる会社を創造しよう」を経営理念としております。お客様に新鮮でより快適な住まいと、暮らしを営んでいただくための生活提案を行い、より良い品をより安く提供することを基本理念として、「お客様に感謝の気持ちと、お客様の立場に立った」いっそうのサービスをすることを行動理念とし生活を応援しております。

当社は、こうした経営理念の実現を通して、「地方都市、中山間地、離島のなくてはならないインフラになろう」の志のもと、地域社会に貢献し、また、昨今における急激な経営環境の変化に迅速・的確に適応し、長期的な繁栄と成長を目指します。

#### (2) 目標とする経営指標

当社は、全社の経営効率を高め、営業収益早期500億円の復活と、経常利益率2%以上を当面の目途としております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、同業他社及び他業態との業態を超えた競争のなかで、新たな市場を求めて、新しい業態の開発、既存エリアの深耕、人材の育成、商品の開発を目指すとともに、効率的な投資と、有利子負債の圧縮により、経営基盤強化と、財務体質の向上を図ってまいります。

#### (4) 経営環境及び会社の対処すべき課題

好調な企業業績や人手不足を背景とした雇用・所得環境の改善等の要因により、当面、景気は回復基調が続くものと思われま。

小売業界におきましては、雇用・所得環境の改善から、消費者マインドが徐々に上向きつつあるものの、緩慢な賃金上昇ペースや生活物価の上昇等の要因から、実質所得の伸びは力強さを欠いており、依然、消費者の生活防衛意識は高く、節約志向、選別志向は根強いものがあります。加えて、人口減少により市場規模が縮小していく中、業種業

態を問わず企業間競争は熾烈を極めております。また、人手不足、人口減少社会により、事業にとって必要な人材の確保が難しくなっており、この問題に対処するための施策が求められております。

こうした状況のもと、当社は次の課題に取り組んでまいります。

「地方都市、中山間地、離島のなくてはならないインフラになろう」の志・経営理念のもとに、「ホームセンターは、農業、園芸、資材、金物、工具、ワーキングの専門店である」の基軸にもとづき、商品・販売施策強化と修理、貸出、技術提供等のサービス面の充実を図ってまいります。一方、ドラッグストア・ブックセンターの関連事業を含め、地域インフラの充実整備に努めます。

店舗につきましては、第58期におきましてホームセンター2店の開店を予定しております。また、改装につきましては、全面改装2店を予定し、収益の向上に取り組んでまいります。

事業活動におきましては、生産性の向上に取り組むことにより、より一層効率的な経営を目指します。

加えて、財務面におきましても、経営資源を最大限に有効活用し、企業体質および財務体質の強化に努めてまいります。



#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末において当社が判断したものであります。

##### (1) 出店に関するリスク

当社は、中国地方、近畿地方において営業活動を行っており、出店地域や出店形態により300坪型から1,000坪型の店舗により出店を行っております。

今後も、同様な政策による出店を進めてまいります。経済環境の変化や、競合他社の動向により、当社の出店政策及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 出店に関する法的規制について

「大規模小売店舗立地法」（平成12年6月1日施行）による規制について

売場面積1,000㎡を超える店舗の出店につきましては、大規模小売店舗立地法の定めにより環境対策等の規制が行われており、規制をクリアできなければ出店することができないこととなっております。

現在、当社は、300坪型から1,000坪型の店舗にて出店を行っておりますが、平米数で1,000㎡を超える場合には、大規模小売店舗立地法の規制の対象となるため、出店にあたり、スケジュールの難航やコスト負担の増加などの影響を受ける可能性があります。

商品販売に係る法的規制について

ホームセンターにおきましては、販売にあたり法的規制を受ける「医療機器」「灯油」「農薬」等の商品を取り扱っております。また、ドラッグストアにおきましては、該当医薬品の販売に関し、薬剤師或いは登録販売者の配置の義務付けなど「薬事法」等の規制を受けております。

当社は、これらの法的規制を遵守のうえ営業を行っておりますが、許認可の状況及び有資格者の確保の状況によっては、出店政策及び営業に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 災害等に関するリスク

当社は、店舗及び本社等の建物や店舗の商品について火災保険に加入しておりますが、地震を始め保険の対象外となる損害が発生した場合は、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 天候要因によるリスク

当社の中心でありますホームセンターにおきましては、冷暖房用品や海浜用品、祭事用品などの季節性の高い商品を取り扱っております。このため、冷夏、暖冬などの気候条件の不順により、予定する販売高を達成できない場合、売上高の減少や、余剰在庫を抱える可能性があり、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 個人情報保護について

当社では、顧客に対するサービスを目的として、「会員カード」「ポイントカード」「クレジットカード」の発行や「懸賞」の受付等を行っているため、顧客に関する情報を保管しております。

顧客情報につきましては、「個人情報保護規程」を制定し、厳重な管理をしておりますが、犯罪行為やシステム障害等により、情報の流出が起こる可能性があり、また、提携先クレジット会社等からの情報の流出の可能性があります。こうした事態が発生した場合は、社会的信用の低下による売上の減少や被害者からの損害賠償の責に問われるなど、当社の業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (6) 同業他社及び他業態との競争激化によるリスク

ホームセンター業界は、他のホームセンター及び他業態との競争が熾烈を極める状況となっております。現在、当社は、中国地方で112店舗（ホームセンター101店舗、ドラッグストア7店舗、ブックセンター4店舗）、近畿地方で30店舗（ホームセンター30店舗）を営業しており、今後も、中国地方、近畿地方において出店を計画しております。

しかし、当社の営業エリアにおきましては、多店舗展開を進めるドラッグストアや大規模商業施設及び他のホームセンターの出店が加速しており、オーバーストアの状態となっている地域もあります。また、現在、当社のドミナントエリアである地域につきましても、他店の出現により競争にさらされることとなり、こうした競争は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 資金調達に関するリスク

当社は、金融機関からの借入により、設備資金や運転資金等を調達しておりますが、当社の経営環境の悪化等の要因、又は金融機関の合併や政府系金融機関の民営化の状況などにより、金融機関との取引に影響を及ぼす可能性があります。

また、今後の金利動向によっては、利息の負担増など、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 固定資産の減損等に関するリスク

「固定資産の減損に係る会計基準」におきましては、当社の資産又は資産グループについて、減損損失を認識する必要があると判定されたものについては、その回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失として計上することとされております。こうした減損の判定につきましては継続的に行うこととされているため、減損の発生状況によっては、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当事業年度末において当社が判断したものであります。

(1) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度の営業収益（売上高及び営業収入）は439億2千4百万円で、前年度比1億5千3百万円（0.3%）の減少となりました。

売上高は、「ホームセンター事業」が395億5千7百万円、「関連事業」が27億8千万円、売上高全体では423億3千7百万円で前事業年度比1億2千7百万円（0.3%）の減少となりました。なお、営業収益に占める売上高の割合は96.4%であります。

売上総利益は122億3千6百万円で、前事業年度比2億2千万円（1.8%）の減少となり、売上高に対する売上総利益率は28.9%で前事業年度比0.4ポイントの減少となりました。

営業収入は、「ホームセンター事業」が15億7千9百万円、「関連事業」が6百万円、営業収入全体では15億8千6百万円で前事業年度比2千6百万円（1.6%）の減少となりました。なお、営業収益に占める営業収入の割合は3.6%であります。

営業総利益は、138億2千3百万円で前事業年度比2億4千6百万円（1.8%）の減少となり、営業収益に対する営業総利益率は31.5%で前事業年度比0.5ポイントの減少となりました。

販売費及び一般管理費は、134億1千2百万円で前事業年度比8千5百万円（0.6%）の減少となり、営業収益販管費率は30.5%で前事業年度比0.1ポイントの減少となりました。

営業利益は4億1千1百万円で前事業年度比1億6千1百万円（28.2%）の減少、経常利益は3億4千9百万円で前事業年度比1億2千7百万円（26.7%）の減少となりました。

当期純利益は2億6百万円で前事業年度比3千1百万円（13.3%）の減少となり、減収減益となりました。

また、1株当たり当期純利益金額は25.65円（前事業年度は29.60円）となりました。

これらの要因につきましては、第2[事業の状況]1[業績等の概要](1)業績に記載しております。

(2) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

財政状態の分析

(流動資産)

当事業年度末の流動資産の残高は141億6千1百万円で前事業年度比4千1百万円(0.3%)の減少となりました。この主な要因は、たな卸資産1億4千万円の増加に対して、現金及び預金1億4千万円の減少によるものであります。

(固定資産)

当事業年度末の固定資産の残高は201億9千6百万円で前事業年度比2億1千6百万円(1.1%)の増加となりました。この主な要因は、店舗の新規出店による資産の増加によるものであります。

(流動負債)

当事業年度末の流動負債の残高は119億2千1百万円で前事業年度比3億4千8百万円(3.0%)の増加となりました。この主な要因は、短期借入金1億円、設備関係支払手形1億3千3百万円、店舗閉鎖損失引当金4千1百万円の増加によるものであります。

(固定負債)

当事業年度末の固定負債の残高は116億9千1百万円で前事業年度比3億2百万円(2.5%)の減少となりました。この主な要因は、リース債務9千4百万円、その他に含まれる長期末払金1億2千8百万円の増加と、長期借入金4億8千9百万円の減少によるものであります。

(純資産)

当事業年度末の純資産の残高は107億4千4百万円で前事業年度比1億2千9百万円(1.2%)の増加となりました。この主な要因は、利益剰余金1億2千6百万円の増加によるものであります。

キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、第2[事業の状況]1[業績等の概要](2)キャッシュ・フローの状況に記載しております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の営業基盤であります中国地方・近畿地方は、同業他社を始め、多店舗展開を進めるドラッグストア、大規模商業施設等の出店により競争が激化しており、厳しい経営環境となっております。また、デフレ圧力の強まりによる商品価格の変動及び天候要因などが、経営成績に影響を及ぼすことが予測されます。

(4) 戦略的現状と見通し

前項に記載しておりますように、厳しい経営環境が続く中、ホームセンター業界をはじめ、小売業界の市場競争は熾烈を極める状況にあります。当社は、過去、中国地方において150坪型の店舗を多店舗展開してまいりましたが、現在は、300坪型から1,000坪型の店舗を基本に新規出店及びリニューアルを行っております。出店形態につきましては、単独での出店のほか、他業態が運営する商業集積への出店、当社が主体となり食品スーパー等のテナントの入店を受ける形態での出店などの複合型の形態によっております。今後も、当社の営業エリアである中国地方、近畿地方において同様の政策による積極的な出店及びリニューアルを行い、商圈のドミナント化を進めてまいります。

商品及び販売政策におきましては、農家のお客様や建築関係のお客様へ「生産財」の商品の提供を強化するため、品揃えや売り方の改革を図ってまいります。加えて、接客、特注品対応、修理、貸出、技術提供等のサービス面の充実に取り組んでまいります。

自社カードシステムにつきましては、カード会員を対象としたポイントの付与による顧客サービスはもとより、イベントの開催や情報提供など、顧客満足度の向上とより一層の販売促進を行ってまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、「ホームセンター事業」と「関連事業」に区分した事業部門別に記載しております。

当社では、店舗のクローズアンドビルド及び全面改装並びに新設を進めており、当事業年度はこれらを中心に設備投資額は16億9百万円となりました。なお、設備投資には有形及び無形固定資産の他、長期前払費用、建設協力金、敷金等を含めて記載しております。

当事業年度は、「ホームセンター事業」において、ホームセンター1店の閉店とホームセンター1店の増床を実施いたしました。改装につきましては、「ホームセンター事業」において、ホームセンター1店の全面改装を実施いたしました。また、「ホームセンター事業」でホームセンター2店、「関連事業」でドラッグストア1店を閉店し、イェローハット4店を事業譲渡しておりますが、重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、「ホームセンター事業」と「関連事業」に区分した事業部門別に記載しております。

当社における主要な設備は次のとおりであります。

平成30年2月28日現在

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース資産	器具備品及び 車両運搬具等	合計	
ホームセンター益田店 (島根県益田市) 外 合計131店舗	ホームセンター事業	営業施設	7,211,416	3,974,845 (58,892)	149,468	462,855	11,798,587	468
サンデーズ浜田店 (島根県浜田市) 外 合計7店舗	同上 (ドラッグストア)	同上	29,294	25,957 (914)	11,775	2,364	69,391	21
ブックセンター浜田店 (島根県浜田市) 外 合計4店舗	同上 (ブックセンター)	同上	47,393	144,311 (4,036)	-	1,402	193,107	17
広島センター (広島県東広島市) 外 合計5箇所	ホームセンター事業 (物流センター)	同上	313,217	146,232 (15,771)	13,145	97,119	569,714	-
江津テナント (島根県江津市) その他	同上 (テナント等)	賃貸営業施設	541,805	940,226 (41,184)	-	1,554	1,483,586	-
本部 (島根県益田市) その他	ホームセンター事業 及び 関連事業	統括業務施設	200,447	782,494 (18,764)	71,742	19,279	1,073,964	132

(注) 1 従業員数は、正社員(正社員に準ずる者を含む)の期末在籍者数から、出向派遣者を除き、出向受入者を加えた就業人員であります。

2 上記のほか、主要なリース設備として以下のものがあります。

設備名	リース契約期間 (年)	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
防犯システム	6	23,089	79,554
貨物自動車	6	10,908	40,367
軽自動車	6	8,630	36,255

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、「ホームセンター事業」と「関連事業」に区分した事業部門別に記載しております。

平成30年2月28日現在において計画している新設、改修、除却、売却等の主なものは次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調達 方法	着手年月	完了 (予定)年月	完成後の 売場面積 (㎡)	増加する 売場面積 (㎡)
			総額	既支払額					
安来店 (鳥根県安来市)	ホームセンター 事業	新設店舗 (建替)	446,555	73,083	自己資金 及び 借入金	平成29年11月	平成30年6月	2,727	2,727
(仮称) Jモール西舞鶴 (京都府舞鶴市)	ホームセンター 事業	新設店舗	1,906,091	326,570	自己資金 及び 借入金	平成29年12月	平成30年10月	10,604 (6,158)	5,658

(注) (仮称) Jモール西舞鶴の完成後の売場面積欄の( )内は、モール内のホームセンター店舗の売場面積であります。

#### (2) 重要な設備の除却

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,800,000
計	28,800,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年5月28日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	8,331,164	8,331,164	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株で あります。
計	8,331,164	8,331,164		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年9月1日(注)	12,496,747	8,331,164	-	4,224,255	-	3,999,241

(注)平成28年5月20日開催の第55回定時株主総会決議により、平成28年9月1日付で当社普通株式2.5株を1株に株式併合し、発行済株式総数が12,496,747株減少しております。

#### (6)【所有者別状況】

平成30年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(名)	-	13	7	127	10	6	6,468	6,631	-
所有株式数 (単元)	-	14,245	58	20,128	1,420	8	47,223	83,082	22,964
所有株式数 の割合(%)	-	17.14	0.07	24.23	1.71	0.01	56.84	100.00	-

(注)自己株式265,460株は、「個人その他」に2,654単元、「単元未満株式の状況」に60株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成30年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
飯塚 正	広島市東区	2,218	26.62
有限会社サンデーズ	島根県鹿足郡津和野町森村イ542番地	1,071	12.86
株式会社山陰合同銀行	島根県松江市魚町10番地	365	4.38
ジュテンドー社員持株会	島根県益田市下本郷町206番地5	359	4.31
アイリスオーヤマ株式会社	仙台市青葉区五橋2丁目12番1号	223	2.68
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町4丁目2番36号	184	2.21
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	149	1.80
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	147	1.77
杉山 令子	東京都中野区	141	1.70
大田 圭子	千葉市花見川区	141	1.69
計		5,001	60.03

- (注) 1 上記のほか、当社所有の自己株式265千株(3.19%)があります。  
2 上記のうち日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)は、株主名簿上の株主であり、当事業年度末現在の実質的な株主は預金保険機構であります。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 265,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,042,800	80,428	
単元未満株式	普通株式 22,964		
発行済株式総数	8,331,164		
総株主の議決権		80,428	

- (注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式60株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株ジュテンドー	島根県益田市 下本郷町206番地5	265,400	-	265,400	3.19
計		265,400	-	265,400	3.19

(9) 【ストックオプション制度の内容】  
該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	454	323,348
当期間における取得自己株式	20	15,120

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他( )	-	-	-	-
保有自己株式数	265,460	-	265,480	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式数は含めておりません。



### 3【配当政策】

当社は、財務体質の向上と経営基盤の強化を計りつつ、収益状況及び配当性向等を総合的に勘案し、株主に対する利益還元を充実させることを重要施策としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、期末配当は株主総会であります。

上記方針に基づき、当事業年度の剰余金の配当につきましては、1株当たり10円としております。

内部留保資金につきましては、新規出店等の設備投資に充当し、企業体質の強化に努めてまいります。

なお、当社は、取締役会の決議によって、毎年8月31日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する剰余金の配当（中間配当）を行うことができる旨を定款に定めております。

（注）基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
平成30年5月25日 定時株主総会決議	80,657	10.00

### 4【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
最高（円）	149	231	210	683 (145)	1,140
最低（円）	120	124	121	312 (122)	527

（注）1．最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

2．平成28年9月1日付で当社普通株式2.5株を1株とする株式併合を実施したため、第56期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、株式併合前の最高・最低株価は（ ）にて記載しております。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年9月	10月	11月	12月	平成30年1月	2月
最高（円）	634	659	775	1,140	1,025	998
最低（円）	584	626	650	765	945	839

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 13名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	営業本部長 兼 開発本部長	飯塚 正	昭和34年12月15日	昭和62年3月 野村證券(株)退社 昭和62年3月 当社入社 平成6年11月 取締役 平成9年11月 常務取締役 平成11年5月 営業本部長(現任) 平成12年3月 開発本部長(現任) 平成17年5月 代表取締役社長(現任) (重要な兼職の状況) ジャストサービス(株)取締役	(注)4	2,218
専務取締役	管理本部長	吉野 順 祥	昭和30年6月20日	平成21年4月 (株)山陰合同銀行から当社へ出向 経営企画室長 平成21年5月 当社取締役 平成22年5月 総務部長 平成22年6月 (株)山陰合同銀行退社 平成24年5月 経理部長 平成25年5月 常務取締役 平成30年5月 管理本部長(現任) 専務取締役(現任) (重要な兼職の状況) ジャストサービス(株)代表取締役	(注)4	18
取締役	商品事業部長	森川 修	昭和33年2月27日	平成元年4月 当社入社 平成15年5月 商品部長 平成18年3月 商品事業部長 兼商品企画室長 平成20年5月 取締役(現任) 平成28年3月 商品事業部長(現任)	(注)4	10
取締役	店舗開発部長	小林 仁	昭和31年11月24日	昭和61年11月 当社入社 平成22年4月 店舗開発部副部長 平成24年5月 店舗開発部長(現任) 平成27年5月 取締役(現任)	(注)4	7
取締役	情報システム部長	永井 智 寛	昭和33年6月14日	昭和58年11月 当社入社 平成15年5月 販売企画部長 平成28年3月 情報システム部長(現任) 平成28年5月 取締役(現任)	(注)4	7
取締役	人事部長	田中 浩 司	昭和33年9月10日	昭和60年12月 当社入社 平成24年3月 研修部長 平成29年3月 人事部長(現任) 平成29年5月 取締役(現任)	(注)4	7
取締役	総務部長 兼 経営企画室長	小田 恭 司	昭和34年4月22日	平成2年4月 当社入社 平成18年3月 商品部長 平成28年3月 総務部長兼経営企画室長(現任) 平成29年5月 取締役(現任)	(注)4	7
取締役	経理部長	松浦 誠	昭和36年7月30日	平成27年10月 (株)山陰合同銀行から当社へ出向 経理部長 平成29年5月 (株)山陰合同銀行退社 平成29年6月 理事 経理部長(現任) 平成30年5月 取締役(現任)	(注)6	-
取締役 (非常勤)		村上 正 行	昭和27年9月20日	平成21年3月 島根県松江警察署長 平成23年3月 島根県警察本部交通部長 平成24年3月 警備部長 平成25年3月 島根県警察本部退職 平成27年5月 当社取締役(現任)	(注)4	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		鮫島 実	昭和32年2月21日	平成22年4月 ㈱山陰合同銀行から ジャスト商事㈱へ出向 ジャスト商事㈱常務取締役 平成22年5月 当社取締役 平成23年4月 ㈱山陰合同銀行退社 平成23年9月 ブックセンター事業部長 平成24年3月 関連事業部長 平成24年5月 経営企画室長兼総務部長 平成25年5月 総務部長 平成28年3月 総務部担当 平成28年5月 監査役(現任) (重要な兼職の状況) ジャストサービス㈱監査役	(注)5	11
監査役		羽柴 克郎	昭和27年12月20日	昭和61年11月 司法書士資格取得 昭和62年2月 司法書士事務所開業 平成16年5月 当社監査役(現任)	(注)5	4
監査役		田原 豊	昭和20年8月1日	平成17年7月 広島北税務署長退官 平成17年9月 税理士事務所開業 平成20年5月 当社監査役(現任)	(注)5	3
監査役		牛尾 義昭	昭和22年10月7日	平成17年7月 広島国税局総務部次長 平成18年7月 福山税務署長 平成19年7月 福山税務署長退官 平成19年9月 税理士事務所開業 平成19年11月 当社顧問税理士 平成28年3月 当社顧問税理士退任 平成28年5月 当社監査役(現任)	(注)5	0
計						2,298

- (注) 1 役員の所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
- 2 取締役 村上正行は、社外取締役であります。
- 3 監査役 羽柴克郎、田原 豊、牛尾義昭は、社外監査役であります。
- 4 取締役の任期は、平成29年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成28年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 取締役の任期は、平成30年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「関わる人々の幸せに貢献できる会社を創造しよう」を経営理念としております。お客様に新鮮でより快適な住まいと、暮らしを営んでいただくための生活提案を行い、より良い品をより安く提供することを基本理念として、「お客様に感謝の気持ちと、お客様の立場に立った」いっそうのサービスをするを行動理念とし生活を応援しております。

当社は、こうした経営理念の実現を通して、「地方都市、中山間地、離島のなくてはならないインフラになる」の志のもと、地域社会に貢献し、また、昨今における急激な経営環境の変化に迅速・的確に適応し、長期的な繁栄と成長を目指しております。

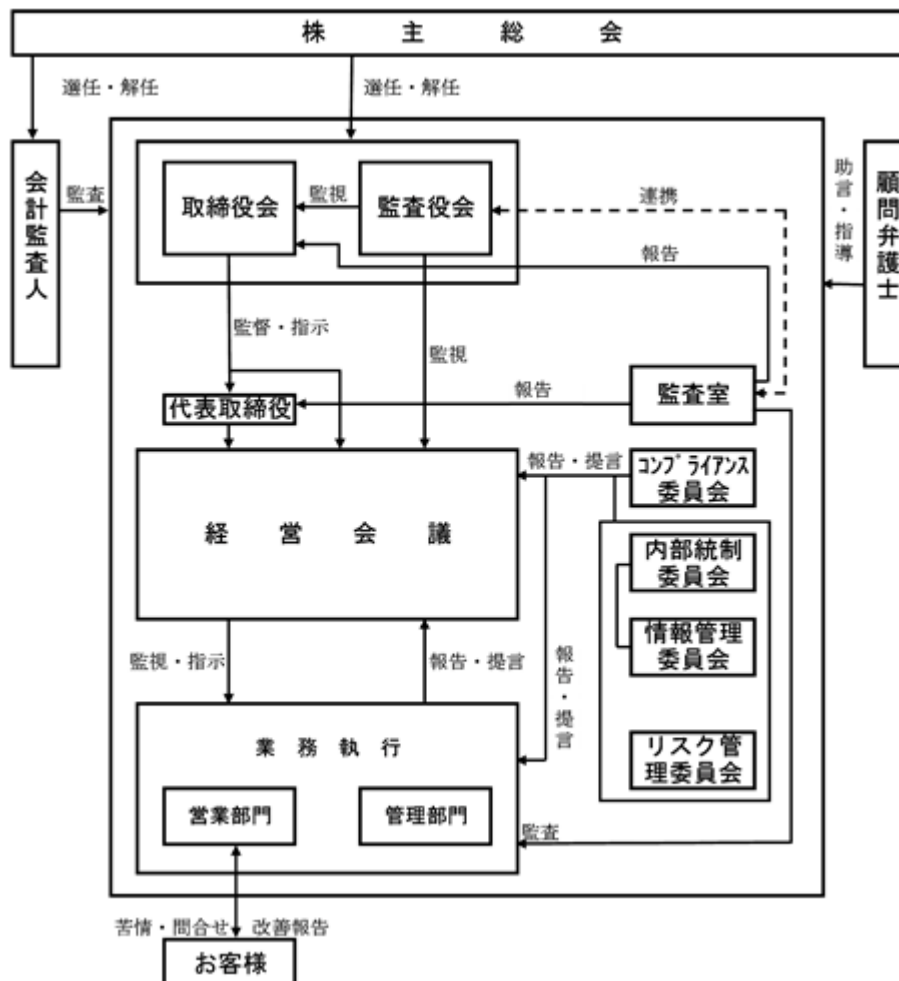
このため、当社は、経営の透明性・健全性を高めるため自己牽制力のある組織に改善するとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制の構築に努めております。

企業統治体制

#### (イ) 企業統治体制の概要

- 取締役会は、取締役9名及び監査役4名出席のもと、月1回定期的に開催しております。また、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。
- 業務の健全性、透明性及び迅速化を計るため、月2回経営会議を開催しております。経営会議は幹部社員及び常勤監査役が出席のうえ開催しております。
- 当社は監査役制度を採用しております。監査役は4名で、うち常勤監査役1名、非常勤監査役3名であり、非常勤監査役3名は社外監査役であります。
- 社長直属の監査室を置き、内部監査計画に基づき業務監査等を定期的実施しております。
- 社内専従スタッフを配置したコンプライアンス委員会及び情報管理委員会、また、リスク管理委員会及び内部統制委員会を設置し、コンプライアンス体制の強化に努めております。
- 監査法人として有限責任 あずさ監査人と監査契約を締結し、会計監査を受けております。
- 法律事務所と顧問契約を締結し、重要な法律問題に関して指導・助言を受けております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の関係図は次のとおりであります。



(ロ) 当該体制を採用する理由

当社は、取締役会、監査役、内部監査室及び会計監査人並びに顧問弁護士と連携を持ちながら、業務の意思決定とリスク管理、コンプライアンスの徹底及び内部統制の強化を図るため、上述の体制を採用しております。

(ハ) その他の企業統治に関する事項

・内部統制システムの整備の状況

a 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

当社は、社是「関わる人々の幸せに貢献できる会社を創造しよう」を経営理念とし、「私たちの誓い」を行動規範として社内に徹底しております。

コンプライアンス経営を推進するため全体を統括する組織として、コンプライアンス委員会（事務局）を設置するとともに、コンプライアンス規程及びコンプライアンスマニュアルを制定しております。

監査室は、会社の業務執行状況を監視し定期的に取締役会へ報告しております。

「社内通報規程」に基づく社内通報制度を制定し、重要な企業倫理違反の早期発見と防止を図っております。

b 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録、その他の定例会議の議事録は、文書管理規程に基づき保存、管理を行っております。

取締役会議事録、その他の定例会議の議事録は、必要に応じて閲覧できるよう整備しています。

c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、損失の危機に関しては、「リスク管理規程」の定めることに基づき管理本部長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置し、当社及び子会社全体のリスクを網羅的に把握・管理する体制の構築を行い、これを運用しております。

また、リスク管理委員会は、内部統制委員会、情報管理委員会とリスク管理に関し緊密に連携し、内部統制委員会のもとで適切なリスク対策を行っております。

d 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、取締役会の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月1回定時に開催するほか、適宜臨時に開催しております。

また、取締役会で決議された条件の中で、経営会議において決議・協議を行う条件が付与された案件は、経営会議を開催して決議・協議を行うものとしております。

取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、業務分掌規程、職務権限規程において、効率的に執行ができるように定めております。

e 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社企業グループは、「子会社管理規程」を定めコンプライアンスマニュアル及び社内通報制度をグループ共通とし、コンプライアンス委員会がグループ全体を統括するコンプライアンス経営を行っております。

f 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項及びその使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項

監査役がその職務を補助するため使用人を置くことを監査役が求めたときは、社内に必要な体制をとることとしております。

また、使用人の取締役からの独立性を確保するため、同使用人は監査役の指示に従い職務を行うものとし、その任命、評価等は監査役会と協議して行うこととしております。

g 取締役及び使用人並びに子会社の取締役等が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人並びに子会社の取締役等は、監査役会と取締役とが、あらかじめ協議し定めた事項について監査役会に報告する体制をとっております。

- h 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
前号の報告をした者がそのことを理由として不利な取扱いを受けることを禁止し、その旨を社内に周知徹底しております。
- i 監査役の職務執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続き等に関する事項  
当社は、監査役の職務執行について生ずる費用の前払い又は償還等の手続き等について、速やかに当該費用又は債務を処理します。
- j その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査役は、取締役会をはじめとする重要会議への出席、取締役からの業務執行状況の聴取、重要な決裁書類等の閲覧等を通じ、取締役会の意思決定の過程、及び取締役の業務執行について監査の実効性の確保を図っております。
- k 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況  
当社は市民社会の秩序や安全性に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当な要求は断固拒否し、これらとの係わりのある企業、団体、個人とはいかなる取引も行わないことを基本方針としております。
- l 業務の適正を確保するための体制の運用状況について  
上記に記載しています当社グループの業務の適正を確保するための体制の運用状況は、定期的に内部統制委員会（前期10回開催）を開催し、運用上見いだされた問題点等の是正・改善状況を協議・検証し、リスク管理委員会、情報管理委員会と連携し、講じた是正・改善状況及び再発防止策等並びに業務プロセスの整備と運用状況の評価を実施した結果を、半期ごとに取締役会へ報告することで適切な内部統制システムの構築・運用に努めております。また、コンプライアンスについては社員階層別研修において講義を実施し、コンプライアンス意識の浸透を図っております。
- ・リスク管理体制の整備の状況  
コンプライアンスにつきましては、社内専従スタッフを配置したコンプライアンス委員会及び情報管理委員会、また、リスク管理委員会および内部統制委員会の事務局を設置しております。「コンプライアンス規程」「個人情報保護規程」「機密情報管理規程」「社内通報規程」「リスク管理規程」「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、会社の基本方針及び具体的な行動指針を徹底し、法令・内部諸規則の遵守及び不正の防止を計るとともに、企業の社会的責任を遂行するため、公正で活力のある組織の構築に努めております。

## (二) 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役又は監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がない等法令に定める要件に該当するときに限られます。

## 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査につきましては、社長直属の監査室を設置しており、人数は4名で構成されております。監査室は、年次監査計画を立案し、監査計画に基づき、業務活動の適正性・遵法性等の監査を実施しております。問題点及び改善点等については、監査報告として都度報告するとともに、半期に1回取締役会に報告しております。なお、業務改善については、関係各部を通じて指示がなされております。

監査役は監査役会で定めた監査の方針に則り、取締役会、経営会議など重要な会議に出席するほか、重要な書類の閲覧、会社の業務及び財産状況の調査等を行い、取締役の職務執行状況の監査を行っております。また、監査役は、会計監査人及び監査室から監査計画の説明や監査結果の報告を受けており、そのほか、問題点に関する意見交換や実地監査への立会い等を通じて、相互の連携を高めております。

監査役会につきましては、隔月に開催しており、監査結果の報告及び重要事項の協議を行っております。

## 会計監査の状況

当社は、会計監査人として、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、同監査法人による会計監査を受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、指定有限責任社員業務執行社員、尾崎更三氏及び高山裕三氏であり、この他に補助者として公認会計士7名、その他10名が従事しております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名であります。

社外取締役村上正行氏は、元公務員として豊富な経験と幅広い知見を有し司法に明るく、企業経営を統治する十分な見識を有していることから選任しております。当社のコンプライアンス経営の強化に向けた経営方針に関し、的確な助言をいただくとともに、コーポレートガバナンスの強化を図ることに寄与していただくこととしております。

社外監査役田原 豊氏及び牛尾義昭氏は、税理士の資格を有し、財務及び会計に関する専門家として、また、社外監査役羽柴克郎氏は、司法書士の資格を有しており、法律の専門家として、業務執行の適法性を監査する社外監査役として適任であると考えております。

社外取締役1名と社外監査役3名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。上記のとおり幅広い視野と豊かな経験に基づいて、外部からの客観的及び中立的な視点より、経営の監視機能が期待できることから選任しております。

社外取締役及び社外監査役は、毎月の取締役会に出席するとともに、定例的に内部監査機能としての監査室、コンプライアンス委員会及び内部統制委員会の活動状況の報告をそれぞれ受け、連携して監督を行っております。

社外取締役及び社外監査役の当社株式の保有状況は、以下のとおりであります。

(社外取締役) 村上正行 1,000株

(社外監査役) 羽柴克郎 4,000株、田原 豊 3,100株、牛尾義昭 200株

当社と社外取締役及び社外監査役とは、人的関係、取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、下記のとおり社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準を定めており、選任にあたっては、取締役として企業統治において必要な知見と経験を有し、監査役として財務・会計・法律の専門的な豊かな経験を有していることを基本とし、会社法に定める社外性の要件を満たすというだけでなく、東京証券取引所の独立役員の基準等を参考にしております。

#### 社外役員の独立性に関する基準

当社は、当社の社外役員及び社外役員候補者が、次の各項目のすべての要件を満たしている場合に当社からの独立性を有している者とする。

- (イ) 当社、当社の子会社または関連会社（以下「当社グループ」という）の取締役（社外取締役を除く。以下同じ。）、監査役（社外監査役を除く。以下同じ。）、会計参与、執行役、執行役員または支配人その他重要な使用人（部長職以上）（以下「取締役等」という。）に現在及び過去においてなつたことがないこと。
- (ロ) 当社グループの取締役等の二親等以内の親族でないこと。
- (ハ) 当社の総議決権の10%以上の議決権を直接又は間接的に保有する大株主又はその取締役等でないこと。
- (ニ) 主要な取引先企業（支払額または受取額が売上高の2%以上を占めている取引先をいう）の取締役等でないこと。
- (ホ) 当社グループから取締役、監査役報酬以外に、当該事業年度において1,000万円以上の報酬を受領している弁護士、公認会計士、各種コンサルティング等の専門サービス提供者（法人、組合等の団体の場合は、当該団体に所属するもの及び当該団体に直近過去5年間所属していたもの）でないこと。
- (ヘ) 当社グループから当該事業年度に1,000万円以上の寄付を受けた者（法人、組合等の団体の場合は、当該団体に所属するもの及び当該団体に直近過去5年間所属していたもの）でないこと。
- (ト) 当社グループと本人が取締役等として所属する企業との間で「社外役員の相互就任関係」にないこと。

役員報酬等

(イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	64,226	64,226	-	-	9
監査役 (社外監査役を除く)	10,800	10,800	-	-	1
社外役員	9,000	9,000	-	-	4

(ロ) 報酬等の総額が1億円以上であるものの報酬等の総額等  
該当事項はありません。

(ハ) 使用人兼務役員の使用人分の給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
43,542	7	給与

(ニ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員の報酬については、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額の範囲内で決定しております。

なお、当社は平成16年5月25日開催の第43回定時株主総会終結の時をもって取締役および監査役の役員退職慰労金制度を廃止し、同株主総会終結後引き続いて在任する取締役及び監査役に対しては、就任時から平成16年2月29日までの在任期間に対応する役員退職慰労金を各氏の退任時に贈呈することを決議しております。



株式の保有状況

(イ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
20銘柄 221,489千円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

a 政策保有に関する方針

当社は取引の安定維持・拡大や情報収集、資金調達の安定化を図ることを目的に、主として取引先からの保有要請を受けて取引先等の株式を取得し保有することとしております。当社は毎年1回主要な投資銘柄につき、発行企業の信用リスク等を踏まえ、継続保有が当社の持続的成長に欠かせないかを検証します。

b 政策保有株式の議決権行使の基準

当社は政策保有株式の議決権行使にあたっては、株主利益を軽視していない限り、当該取引先の会社提案を尊重します。当該取引先に不祥事や反社会的行為が発生した場合はコーポレート・ガバナンスの改善に資するよう議決権を行使します。

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社山陰合同銀行	138,000	138,828	取引の維持,関係強化
株式会社山口フィナンシャルグループ	10,000	12,960	取引の維持,関係強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	2,700	11,817	取引の維持,関係強化
株式会社コメリ	2,700	7,489	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
D C Mホールディングス株式会社	2,940	2,937	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
大正製薬ホールディングス株式会社	300	2,745	取引の維持,関係強化
第一生命ホールディングス株式会社	1,100	2,323	取引の維持,関係強化
株式会社アサヒペン	12,000	2,256	取引の維持,関係強化
株式会社ナフコ	1,000	1,789	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,700	1,255	取引の維持,関係強化
トラスコ中山株式会社	400	1,014	取引の維持,関係強化
株式会社マキタ	100	778	取引の維持,関係強化
株式会社ケーヨー	1,000	579	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
株式会社やまびこ	400	565	取引の維持,関係強化
株式会社イエローハット	144	411	取引の維持,関係強化
ユアサ商事株式会社	100	323	取引の維持,関係強化

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社山陰合同銀行	138,000	139,932	取引の維持,関係強化
株式会社山口フィナンシャルグループ	10,000	12,980	取引の維持,関係強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	2,700	12,652	取引の維持,関係強化
株式会社コメリ	2,700	8,343	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
D C Mホールディングス株式会社	2,940	3,101	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
大正製薬ホールディングス株式会社	300	2,934	取引の維持,関係強化
株式会社アサヒペン	12,000	2,364	取引の維持,関係強化
第一生命ホールディングス株式会社	1,100	2,345	取引の維持,関係強化
株式会社ナフコ	1,000	2,044	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,700	1,295	取引の維持,関係強化
トラスコ中山株式会社	400	1,120	取引の維持,関係強化
株式会社マキタ	200	1,014	取引の維持,関係強化
株式会社やまびこ	400	668	取引の維持,関係強化
株式会社ケーヨー	1,000	613	当社が属する業界及び同業他社の 情報収集
株式会社イエローハット	144	460	取引の維持,関係強化
ユアサ商事株式会社	100	374	取引の維持,関係強化

取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

(イ) 自己株式の取得の決定機関

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(ロ) 中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを可能とするため、取締役会の決議によって、毎年8月31日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する剰余金の配当(中間配当)を行うことができる旨を定款に定めております。

(八) 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

(二) 監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
22,000		22,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は、監査公認会計士等に対する報酬の額の決定に関する方針を定めておりませんが、監査公認会計士等より提示された監査計画、監査内容、監査日数等について、当社の規模・業務の特性及び前事業年度の報酬等を勘案して、監査報酬について監査公認会計士等との協議の上、監査役会の同意を得て決定することとしています。

## 第5【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成29年3月1日から平成30年2月28日まで）の財務諸表について有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年10月大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.02%
売上高基準	0.01%
利益基準	0.18%
利益剰余金基準	0.20%

### 4 財務諸表等の適正化を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正化を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、外部の団体等が主催するセミナーへの参加及び会計専門誌等の定期購読に取り組んでおります。

## 1【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,089,216	948,386
売掛金	133,679	135,187
商品	12,058,677	12,189,188
貯蔵品	22,626	32,767
前渡金	22,483	-
前払費用	282,384	280,732
繰延税金資産	156,449	179,778
建設協力金	205,639	178,387
その他	231,414	216,642
流動資産合計	14,202,572	14,161,070
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1, 2 21,080,460	1, 2 21,344,723
減価償却累計額	13,230,388	13,508,465
建物(純額)	7,850,072	7,836,258
構築物	2 3,670,512	2 3,702,022
減価償却累計額	3,140,245	3,194,705
構築物(純額)	530,267	507,317
機械及び装置	2 578,090	2 584,238
減価償却累計額	444,598	470,136
機械及び装置(純額)	133,492	114,101
車両運搬具	54,678	71,726
減価償却累計額	39,517	50,989
車両運搬具(純額)	15,161	20,737
工具、器具及び備品	2 2,003,210	2 2,144,979
減価償却累計額	1,542,292	1,680,042
工具、器具及び備品(純額)	460,917	464,937
土地	1 6,049,162	1 6,014,068
リース資産	282,699	378,566
減価償却累計額	152,636	132,434
リース資産(純額)	130,062	246,131
建設仮勘定	49,307	354,952
有形固定資産合計	15,218,443	15,558,503
<b>無形固定資産</b>		
借地権	454,526	322,258
ソフトウェア	122,181	283,514
電話加入権	9,142	8,982
リース資産	121	30
その他	87,120	6,872
無形固定資産合計	673,093	621,658

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	216,616	221,489
関係会社株式	3,000	3,000
出資金	302	302
長期貸付金	36,390	15,102
従業員に対する長期貸付金	282	114
長期前払費用	414,793	502,655
前払年金費用	-	7,961
繰延税金資産	187,851	196,504
建設協力金	1,179,326	1,000,111
敷金	1,755,911	1,772,680
その他	294,387	296,716
投資その他の資産合計	4,088,861	4,016,637
固定資産合計	19,980,399	20,196,800
資産合計	34,182,971	34,357,870
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3,648,164	918,653
電子記録債務	71,405	2,842,065
買掛金	2,316,617	2,277,314
短期借入金	1,316,000	1,700,000
1年内返済予定の長期借入金	1,229,485	1,232,797
リース債務	46,027	75,307
未払金	572,436	583,216
未払費用	379,884	382,288
未払法人税等	163,366	157,572
前受金	511	-
預り金	39,739	38,441
前受収益	35,845	37,080
賞与引当金	127,193	132,599
ポイント引当金	268,242	269,906
店舗閉鎖損失引当金	-	41,800
設備関係支払手形	-	133,596
資産除去債務	1,400	1,400
その他	4,122	4,091
流動負債合計	11,572,441	11,921,131
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,849,916	1,800,519
長期預り敷金	223,288	232,069
リース債務	101,904	196,422
退職給付引当金	2,518,849	2,523,586
店舗閉鎖損失引当金	13,700	-
資産除去債務	457,267	434,014
その他	187,872	303,295
固定負債合計	11,994,798	11,691,906
負債合計	23,567,240	23,613,037

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,224,255	4,224,255
資本剰余金		
資本準備金	3,999,241	3,999,241
資本剰余金合計	3,999,241	3,999,241
利益剰余金		
利益準備金	715,126	715,126
その他利益剰余金		
別途積立金	1,319,189	1,319,189
繰越利益剰余金	417,591	543,849
利益剰余金合計	2,451,907	2,578,166
自己株式	115,359	115,682
株主資本合計	10,560,045	10,685,980
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55,685	58,852
評価・換算差額等合計	55,685	58,852
純資産合計	10,615,731	10,744,833
負債純資産合計	34,182,971	34,357,870

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
<b>売上高</b>		
商品売上高	42,023,879	41,871,133
その他の売上高	441,183	466,759
売上高合計	42,465,063	42,337,892
<b>売上原価</b>		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	11,830,194	12,058,677
当期商品仕入高	29,920,373	30,008,344
合計	41,750,567	42,067,022
商品期末たな卸高	12,058,677	12,189,188
商品他勘定振替高	-	1,125,382
商品売上原価	29,691,889	29,752,451
その他の売上原価	316,019	349,019
売上原価合計	30,007,909	30,101,470
売上総利益	12,457,154	12,236,422
<b>営業収入</b>		
不動産賃貸収入	440,340	440,306
業務受託収入	1,172,776	1,146,625
営業収入合計	1,613,117	1,586,932
営業総利益	14,070,271	13,823,355
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 13,497,728	<sup>2</sup> 13,412,016
営業利益	572,543	411,339
<b>営業外収益</b>		
受取利息	24,084	22,058
受取配当金	4,162	4,589
受取手数料	7,331	7,371
受取保険金	6,417	13,547
雑収入	34,673	38,581
営業外収益合計	76,669	86,148
<b>営業外費用</b>		
支払利息	160,553	136,554
雑損失	11,491	11,302
営業外費用合計	172,044	147,856
経常利益	477,167	349,631
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	<sup>3</sup> 116,867	<sup>3</sup> 26,471
受取保険金	275	32,208
収用補償金	-	1,108
事業分離における移転利益	-	39,903
過去勤務費用償却益	-	471,702
店舗閉鎖損失引当金戻入額	-	8,166
補助金収入	52	-
特別利益合計	117,194	579,561



(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
特別損失		
固定資産売却損	4,118	-
固定資産除却損	5,97,264	5,34,570
減損損失	6,60,057	6,43,251
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	41,800
災害による損失	-	21,565
退職給付制度移行損	-	462,816
特別損失合計	157,441	604,004
税引前当期純利益	436,921	325,188
法人税、住民税及び事業税	184,397	151,255
法人税等調整額	13,737	32,986
法人税等合計	198,134	118,268
当期純利益	238,786	206,920

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計			
				別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	4,224,255	3,999,241	715,126	1,319,189	239,305	2,273,621	115,168	10,381,950	
当期変動額									
剰余金の配当					60,500	60,500		60,500	
当期純利益					238,786	238,786		238,786	
自己株式の取得							190	190	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	178,286	178,286	190	178,095	
当期末残高	4,224,255	3,999,241	715,126	1,319,189	417,591	2,451,907	115,359	10,560,045	

	評価・換算 差額等	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	
当期首残高	14,745	10,396,695
当期変動額		
剰余金の配当		60,500
当期純利益		238,786
自己株式の取得		190
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	40,940	40,940
当期変動額合計	40,940	219,036
当期末残高	55,685	10,615,731

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計			
				別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	4,224,255	3,999,241	715,126	1,319,189	417,591	2,451,907	115,359	10,560,045	
当期変動額									
剰余金の配当					80,661	80,661		80,661	
当期純利益					206,920	206,920		206,920	
自己株式の取得							323	323	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	126,258	126,258	323	125,935	
当期末残高	4,224,255	3,999,241	715,126	1,319,189	543,849	2,578,166	115,682	10,685,980	

	評価・換算 差額等	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	
当期首残高	55,685	10,615,731
当期変動額		
剰余金の配当		80,661
当期純利益		206,920
自己株式の取得		323
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,166	3,166
当期変動額合計	3,166	129,101
当期末残高	58,852	10,744,833

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	436,921	325,188
減価償却費	1,037,368	1,017,063
減損損失	60,057	43,251
賞与引当金の増減額(は減少)	48	5,406
退職給付引当金の増減額(は減少)	10,218	13,622
前払年金費用の増減額(は増加)	-	7,961
受取利息及び受取配当金	28,247	26,648
支払利息	160,553	136,554
有形及び無形固定資産売却損益(は益)	116,748	26,471
有形及び無形固定資産除却損	97,264	34,570
補助金収入	52	-
受取保険金	6,692	45,756
収用補償金	-	1,108
店舗閉鎖損失引当金戻入額	-	8,166
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	41,800
災害損失	-	21,565
事業譲渡損益(は益)	-	39,903
過去勤務費用償却益	-	471,702
退職給付制度移行損	-	462,816
売上債権の増減額(は増加)	1,124	1,714
たな卸資産の増減額(は増加)	227,478	266,033
仕入債務の増減額(は減少)	37,302	1,846
その他	217,693	21,068
小計	1,656,648	1,229,286
利息及び配当金の受取額	7,581	8,000
利息の支払額	161,484	136,159
補助金の受取額	52	-
保険金の受取額	5,998	45,241
収用補償金の受取額	-	1,108
災害損失の支払額	-	2,675
法人税等の支払額	114,265	199,468
法人税等の還付額	10,534	1,093
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,405,065	946,427
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	1,307,548	979,452
有形及び無形固定資産の売却による収入	220,757	60,393
貸付けによる支出	500	-
貸付金の回収による収入	22,257	22,366
事業譲渡による収入	-	2,188,139
その他	174,213	160,965
投資活動によるキャッシュ・フロー	890,820	547,588
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	200,000	100,000
長期借入れによる収入	2,200,000	1,900,000
長期借入金の返済による支出	2,257,596	2,361,085
リース債務の返済による支出	77,068	55,486
割賦債務の返済による支出	12,408	42,243
自己株式の取得による支出	124	331
配当金の支払額	60,318	80,523
財務活動によるキャッシュ・フロー	407,516	539,670
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	106,728	140,830
現金及び現金同等物の期首残高	982,488	1,089,216
現金及び現金同等物の期末残高	1,089,216	1,948,386

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 重要な会計方針 )

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

評価方法は売価還元法によっております。ただし、配送センター在庫は、移動平均法によっております。

(2) 貯蔵品

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

評価方法は最終仕入原価法によっております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月以降取得の建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアの減価償却方法は、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、リース取引開始日が平成21年2月28日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却をしております。

#### 4 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

##### (3) 店舗閉鎖損失引当金

店舗閉店に伴い発生する損失に備えるため、合理的に見込まれる閉店関連損失見込額を計上しております。

##### (4) ポイント引当金

ポイントカードにより顧客に付与されたポイントの利用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

##### (5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（退職一時金制度については5年、確定給付企業年金制度については1年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

#### 5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金・随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

#### 6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

##### (表示方法の変更)

##### (損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「雑収入」に含めていた「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「雑収入」に表示していた41,091千円は、「受取保険金」6,417千円、「その他」34,673千円として組替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(確定給付企業年金制度への移行)

当社は、加入しておりました「日本DIYホームセンター事業厚生年金基金」の解散に伴い、これに代わる制度として、新たな確定給付企業年金制度を平成29年9月1日より施行しております。

これに伴い、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 平成28年12月16日)を適用し、過去勤務費用償却益471,702千円を特別利益に、退職給付制度移行損462,816千円を特別損失にそれぞれ計上しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保提供資産

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
土地	3,969,762千円	3,969,762千円
建物	1,782,359	1,447,899
計	5,752,121	5,417,661

担保されている債務

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
短期借入金及び長期借入金(1年内返済予定含む)	5,062,859千円	4,546,174千円

2 圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより取得価額から控除している圧縮記帳額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
建物	12,877千円	12,877千円
構築物	417	417
機械及び装置	10,705	10,705
工具、器具及び備品	19,428	19,428
計	43,428	43,428

3 当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、(株)山陰合同銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	3,000,000千円	4,000,000千円
借入実行残高	1,600,000	1,700,000
差引額	1,400,000	2,300,000



(損益計算書関係)

1 商品他勘定振替高の内訳

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
事業譲渡による振替	- 千円	106,491千円
災害による損失	-	18,890
計	-	125,382

2 販売費及び一般管理費

(1) 販売費に属する費用と一般管理費に属する費用のおおよその割合は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
販売費	80%	78%
一般管理費	20	22

(2) 主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
広告宣伝費	635,667千円	609,593千円
従業員給料手当	4,399,990	4,342,680
賞与引当金繰入額	127,193	132,599
退職給付費用	175,583	128,615
減価償却費	981,746	974,294
賃借料	2,956,758	2,935,170
水道光熱費	619,031	617,360
リース料	86,209	104,097
ポイント引当金繰入額	267,588	269,906

3 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
機械及び装置	299千円	- 千円
工具、器具及び備品	37	4
車両運搬具	867	269
土地	115,662	26,196
計	116,867	26,471

4 固定資産売却損の内訳

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
車両運搬具	118千円	- 千円
計	118	-

## 5 固定資産除却損の内訳

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
建物	38,974千円	8,853千円
構築物	2,609	495
工具、器具及び備品	962	927
解体撤去費	54,718	24,293
その他	0	-
計	97,264	34,570

## 6 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

場所	用途	種類
H C 香芝店(奈良県香芝市)外 合計7店舗等	店舗等	土地、建物等

当社は、原則として店舗(テナントを含む)を基本単位としてグルーピングを行っております。また、同一敷地内の複合施設につきましては1つの資産グループとしてグルーピングをしております。主に収益性が低下した上記の資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失60,057千円(土地436千円、建物50,000千円、構築物2,955千円、電話加入権458千円、その他6,206千円)として特別損失に計上いたしました。

資産グループの回収可能価額は、正味売却価額によっております。正味売却価額につきましては、主として重要な資産は不動産鑑定士による不動産鑑定評価により、それ以外の資産は不動産鑑定評価に準ずる方法等により算定しております。

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

場所	用途	種類
H C 下津店(和歌山県海南市)外 合計13店舗等	店舗等	土地、建物等

当社は、原則として店舗(テナントを含む)を基本単位としてグルーピングを行っております。また、同一敷地内の複合施設につきましては1つの資産グループとしてグルーピングをしております。主に収益性が低下した上記の資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失43,251千円(土地1,172千円、建物32,710千円、構築物2,779千円、その他6,589千円)として特別損失に計上いたしました。

資産グループの回収可能価額は、正味売却価額によっております。正味売却価額につきましては、主として重要な資産は不動産鑑定士による不動産鑑定評価により、それ以外の資産は不動産鑑定評価に準ずる方法等により算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成28年3月1日至平成29年2月28日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式(株)(注)1.2.	20,827,911	-	12,496,747	8,331,164
合計(株)	20,827,911	-	12,496,747	8,331,164
自己株式				
普通株式(株)(注)1.3.4.	661,118	589	396,701	265,006
合計(株)	661,118	589	396,701	265,006

(変動事由の概要)

- (注) 1. 当社は、平成28年9月1日付で2.5株につき1株の割合で株式併合を行っております。  
 2. 普通株式の発行済株式総数の減少12,496,747株は株式併合によるものであります。  
 3. 普通株式の自己株式数の増加589株は、株式併合前に行った単元未満株式の買取りによる増加50株、株式併合後に行った単元未満株式の買取りによる増加190株及び株式併合に伴う端数株式の買取りによる増加349株によるものであります。  
 4. 普通株式の自己株式数の減少396,701株は株式併合によるものであります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年5月20日 定時株主総会	普通株式	60,500	3.00	平成28年2月29日	平成28年5月23日

(注) 平成28年9月1日付で、普通株式について2.5株を1株の割合で株式併合を行っておりますが、上記の1株当たり配当額については、株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月26日 定時株主総会	普通株式	80,661	利益剰余金	10.00	平成29年2月28日	平成29年5月29日

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式（株）	8,331,164	-	-	8,331,164
合計（株）	8,331,164	-	-	8,331,164
自己株式				
普通株式（株）（注）1 .	265,006	454	-	265,460
合計（株）	265,006	454	-	265,460

（変動事由の概要）

（注）1 . 普通株式の自己株式の株式数の増加454株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成29年5月26日 定時株主総会	普通株式	80,661	10.00	平成29年2月28日	平成29年5月29日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年5月25日 定時株主総会	普通株式	80,657	利益剰余金	10.00	平成30年2月28日	平成30年5月28日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
現金及び預金勘定	1,089,216千円	948,386千円
現金及び現金同等物	1,089,216	948,386

2 現金及び現金同等物を対価とする事業の譲渡に係る資産及び負債の主な内訳

当事業年度に「イエローハット」FC事業を譲渡したことに伴う資産及び負債の内訳並びに事業の譲渡価額と事業譲渡による収入は次のとおりです。

流動資産	132,108千円
固定資産	6,152
流動負債	2,228
移転損益	39,903
事業の譲渡価額	175,935
その他	12,204
差引:事業譲渡による収入	188,139

3 重要な非資金取引の内容

新たに計上したファイナンス・リース取引及び割賦取引に係る資産及び債務の額

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	72,214千円	164,513千円
割賦取引に係る資産及び債務の額	117,650	187,757

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、店舗における陳列什器及び空調機器(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度（平成29年2月28日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	207,063	147,288	59,775
合計	207,063	147,288	59,775

(単位：千円)

	当事業年度（平成30年2月28日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	207,063	151,309	55,753
合計	207,063	151,309	55,753

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 （平成29年2月28日）	当事業年度 （平成30年2月28日）
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	2,952	4,021
1年超	56,823	51,732
合計	59,775	55,753

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：千円)

	前事業年度 （自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）	当事業年度 （自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）
支払リース料	2,952	4,021
減価償却費相当額	2,952	4,021

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

建設協力金並びに敷金は主として新規出店時に賃貸物件を利用する際の貸主に対して差し入れる建設協力金並びに敷金であり、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに取引先ごとの信用状況を把握する体制をとっております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務、未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日のものであります。

短期借入金は運転資金に係る資金調達であり、長期借入金は主として設備投資に係る資金調達であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.を参照下さい。）。

前事業年度（平成29年2月28日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,089,216	1,089,216	-
(2) 投資有価証券			
その他有価証券	188,073	188,073	-
(3) 建設協力金( 1)	1,384,966	1,466,715	81,749
(4) 敷金	1,755,911	1,698,387	57,524
資産計	4,418,167	4,442,392	24,224
(1) 支払手形及び買掛金	5,964,781	5,964,781	-
(2) 電子記録債務	71,405	71,405	-
(3) 短期借入金	1,600,000	1,600,000	-
(4) 未払金	572,436	572,436	-
(5) 長期借入金( 2)	10,789,401	10,843,138	53,737
負債計	18,998,024	19,051,762	53,737

( 1) 貸借対照表では流動資産にある、1年以内に償還される建設協力金（貸借対照表計上額205,639千円）も含めて表示しております。

( 2) 貸借対照表では流動負債にある、1年内返済予定の長期借入金（貸借対照表計上額2,297,485千円）も含めて表示しております。

当事業年度（平成30年2月28日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	948,386	948,386	-
(2) 投資有価証券			
その他有価証券	192,243	192,243	-
(3) 建設協力金( 1 )	1,178,498	1,248,559	70,060
(4) 敷金	1,772,680	1,695,854	76,825
資産計	4,091,808	4,085,043	6,764
(1) 支払手形及び買掛金	3,195,968	3,195,968	-
(2) 電子記録債務	2,842,065	2,842,065	-
(3) 短期借入金	1,700,000	1,700,000	-
(4) 未払金	583,216	583,216	-
(5) 長期借入金( 2 )	10,328,316	10,328,321	5
負債計	18,649,566	18,649,571	5

- ( 1 ) 貸借対照表では流動資産にある、1年以内に償還される建設協力金（貸借対照表計上額178,387千円）も含めて表示しております。
- ( 2 ) 貸借対照表では流動負債にある、1年内返済予定の長期借入金（貸借対照表計上額2,325,797千円）も含めて表示しております。

(注) 1 . 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(3) 建設協力金並びに(4) 敷金

これらの時価については、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金並びに(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

時価については元利金の合計額を当該借入金の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
非上場株式	28,543	29,245

非上場株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「資産(2) 投資有価証券」には含めておりません。



(注) 3 . 金銭債権の決算日後の償還予定額  
前事業年度 (平成29年 2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,089,216	-	-	-
建設協力金	205,639	510,505	395,921	272,898
敷金	229,251	695,165	397,834	433,660
合計	1,524,108	1,205,671	793,755	706,558

当事業年度 (平成30年 2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	948,386	-	-	-
建設協力金	178,387	431,706	355,583	212,821
敷金	178,370	641,908	420,693	531,708
合計	1,305,143	1,073,614	776,276	744,529

(注) 4 . 長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額  
前事業年度 (平成29年 2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	1,600,000	-	-	-
長期借入金	2,297,485	7,105,110	1,386,806	-
合計	3,897,485	7,105,110	1,386,806	-

当事業年度 (平成30年 2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	1,700,000	-	-	-
長期借入金	2,325,797	6,804,647	1,197,872	-
合計	4,025,797	6,804,647	1,197,872	-

(有価証券関係)

1 . 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式 (当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,000千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,000千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

2. その他有価証券

前事業年度（平成29年2月28日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	185,817	107,536	78,280
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	185,817	107,536	78,280
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	2,256	2,400	144
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,256	2,400	144
合計		188,073	109,936	78,136

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2 非上場株式（貸借対照表計上額 28,543千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度（平成30年2月28日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	189,879	107,536	82,342
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	189,879	107,536	82,342
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	2,364	2,400	36
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,364	2,400	36
合計		192,243	109,936	82,306

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2 非上場株式（貸借対照表計上額 29,245千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社が採用している退職給付制度は、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度であります。

また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社が加入しておりました「日本DIYホームセンター事業厚生年金基金」が平成29年5月30日付で解散したことに伴い、これに代わる制度として、平成29年9月1日付で新たな確定給付企業年金制度に移行しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
退職給付債務の期首残高	2,455,607千円	2,427,270千円
勤務費用	122,144	138,380
利息費用	13,751	14,532
退職給付制度移行に伴う債務の増加額	-	807,184
過去勤務費用の発生額	-	471,702
数理計算上の差異の発生額	7,876	7,458
退職給付の支払額	156,355	105,804
退職給付債務の期末残高	2,427,270	2,817,318

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
年金資産の期首残高	- 千円	- 千円
期待運用収益	-	-
数理計算上の差異の発生額	-	55
事業主からの拠出額	-	19,046
退職給付の支払額	-	7,041
退職給付制度移行に伴う増加額	-	344,367
年金資産の期末残高	-	356,428

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
積立型制度の退職給付債務	- 千円	348,411千円
年金資産	-	356,428
	-	8,016
非積立型制度の退職給付債務	2,427,270	2,468,906
未積立退職給付債務	2,427,270	2,460,889
未認識数理計算上の差異	60,717	32,103
未認識過去勤務費用	30,861	22,631
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,518,849	2,515,624
退職給付引当金	2,518,849	2,523,586
前払年金費用	-	7,961
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,518,849	2,515,624

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)	当事業年度 (自平成29年3月1日 至平成30年2月28日)
勤務費用	122,144千円	138,380千円
利息費用	13,751	14,532
期待運用収益	-	-
数理計算上の差異の費用処理額	18,470	21,211
過去勤務費用の費用処理額	8,229	8,229
確定給付制度に係る退職給付費用	146,136	123,470

(注) 当事業年度については、上記の他に、新たな確定給付企業年金制度へと移行したことに伴い、過去勤務費用償却益471,702千円を特別利益に、退職給付制度移行損462,816千円を特別損失にそれぞれ計上しております。

(5) 年金資産に関する事項  
年金資産の主な内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
現金及び預金	-	95%
生保一般勘定	-	5
合計	-	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数値計算上の計算基礎に関する事項  
主要な数値計算上の計算基礎

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
割引率	0.6%	0.6%
長期期待運用収益率	-	1.3
予想昇給率	2.9	2.9

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への基金解散までの要拠出額は、前事業年度29,446千円、当事業年度5,144千円であり、同額を費用処理しております。

なお、当社が加入しておりました「日本DIYホームセンター事業厚生年金基金」は、上述(「1. 採用している退職給付制度の概要」に記載)のとおり、平成29年5月30日付で解散しております。

また、以下の(1)複数事業主制度の直近の積立状況、(2)複数事業主制度の掛金に占める当社の割合、(3)補足説明については、同基金が解散しているため、前事業年度末の状況のみを記載しております。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前事業年度 (平成28年3月31日現在)
年金資産の額	35,739,324千円
年金財政計算上の数値債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	39,372,380
差引額	3,633,055

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

	前事業年度 (平成28年3月31日現在)
	9.9%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額的主要因は、年金財政計算上の別途積立金(前事業年度4,470,114千円)及び当年度剰余金(前事業年度837,058千円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致いたしません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	20,667千円	29,880千円
賞与引当金	39,035	40,694
退職給付引当金	767,673	768,969
ポイント引当金	82,323	82,834
減価償却費	40,456	47,863
減損損失累計額	769,262	737,771
資産除去債務	139,709	132,627
その他	40,694	48,106
繰延税金資産小計	1,899,823	1,888,747
評価性引当額	1,473,553	1,429,288
繰延税金資産合計	426,270	459,459
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	22,450	23,454
資産除去債務に対応する除去費用	59,518	56,256
還付事業税	-	1,039
前払年金費用	-	2,424
繰延税金負債合計	81,969	83,175
繰延税金資産の純額	344,300	376,283

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の重要な差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率	32.8%	30.7%
(調整)		
住民税均等割	14.6	18.7
評価性引当額	7.1	13.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	6.1	-
その他	1.0	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.4	36.4

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

事業分離

1 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

株式会社イエローハット

株式会社山陰イエローハット

(2) 分離した事業の内容

「イエローハット」FC事業

(3) 事業分離を行った主な理由

株式会社イエローハットより、山陰エリアの経営の効率化と強化を図るため、子会社として株式会社山陰イエローハットを設立し、山陰エリアの店舗の一括経営を行うにあたり、当社の4店舗の譲受申入れがあり、当社は「イエローハット」FC事業を譲渡することにいたしました。

(4) 事業分離日

平成29年3月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

2 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

39,903千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 132,108千円

固定資産 6,152

資産合計 138,261

流動負債 2,228

負債合計 2,228

(3) 会計処理

移転した「イエローハット」FC事業に関する投資は清算されたものとみて、移転したことにより受け取った対価となる財産の時価と、移転した事業に係る株主資本相当額との差額を移転損益として認識しております。

3 分離した事業が含まれていた報告セグメント

一般小売業

4 当事業年度に係る損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

当事業年度の期首に事業分離を行っているため、当事業年度の損益計算書には、分離した事業に係る損益は含まれておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を建物等の耐用年数(主に34年)と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回り(主に2.118%)を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
期首残高	442,340千円	458,667千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	18,303	1,391
時の経過による調整額	8,133	7,960
資産除去債務の履行による減少額	10,110	4,945
その他増減額(は減少)	-	27,659
期末残高	458,667	435,414

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。



当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

当社はホームセンターを主たる事業とする一般小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

項目	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり純資産額	1,316.08円	1,332.16円
1株当たり当期純利益金額	29.60円	25.65円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1 平成28年9月1日付で、普通株式について2.5株を1株の割合で株式併合を行ったため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度末 (平成29年2月28日)	当事業年度末 (平成30年2月28日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	10,615,731	10,744,833
普通株式に係る純資産額(千円)	10,615,731	10,744,833
差額の主な内訳(千円)	-	-
普通株式の発行済株式数(株)	8,331,164	8,331,164
普通株式の自己株式数(株)	265,006	265,460
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	8,066,158	8,065,704

3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
損益計算書上の当期純利益金額(千円)	238,786	206,920
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	238,786	206,920
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式の期中平均株式数(株)	8,066,463	8,065,948

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	21,080,460	513,296	249,034 (32,710)	21,344,723	13,508,465	482,781	7,836,258
構築物	3,670,512	71,482	39,972 (2,779)	3,702,022	3,194,705	91,156	507,317
機械及び装置	578,090	11,117	4,970 (0)	584,238	470,136	28,152	114,101
車両運搬具	54,678	20,439	3,390	71,726	50,989	13,723	20,737
工具、器具及び備品	2,003,210	234,307	92,537 (302)	2,144,979	1,680,042	228,026	464,937
土地	6,049,162	-	35,094 (1,172)	6,014,068	-	-	6,014,068
リース資産	282,699	164,513	68,646 (3)	378,566	132,434	48,380	246,131
建設仮勘定	49,307	947,424	641,779	354,952	-	-	354,952
有形固定資産計	33,768,122	1,962,580	1,135,425 (36,968)	34,595,277	19,036,773	892,221	15,558,503
無形固定資産							
借地権	454,526	-	132,268	322,258	-	-	322,258
ソフトウェア	350,455	250,996	76,598	524,853	241,338	89,662	283,514
電話加入権	9,142	-	160 (160)	8,982	-	-	8,982
リース資産	10,955	-	-	10,955	10,924	91	30
その他	95,802	134,479	214,335 (155)	15,946	9,074	1,021	6,872
無形固定資産計	920,883	385,475	423,361 (315)	882,996	261,337	90,775	621,658
長期前払費用	609,022	165,864	44,752 (5,967)	730,133	227,478	34,066	502,655

(注) 1 当期減少額のうち( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

2 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物 店舗新設 308,297千円

建設仮勘定 店舗新設 720,483千円

3 取得価額から控除した圧縮記帳額は次のとおりであります。

建物 12,877千円 構築物 417千円 機械及び装置 10,705千円 工具、器具及び備品 19,428千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,600,000	1,700,000	0.55	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,297,485	2,325,797	1.34	
1年以内に返済予定のリース債務	46,027	75,307		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	8,491,916	8,002,519	1.04	平成31年5月 ~37年9月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	101,904	196,422		平成31年6月 ~39年11月
その他有利子負債 1年以内に返済予定の割賦未払金	20,451	52,308	0.79	
その他有利子負債 割賦未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)	94,202	222,879	0.79	平成32年5月 ~36年11月
合計	12,651,986	12,575,234		

(注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各事業年度に配分しているため、記載しておりません。

3 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,980,305	2,602,640	1,281,168	940,534
リース債務	45,717	38,953	34,476	18,727
その他有利子負債 割賦未払金	52,722	51,387	44,833	37,721

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	127,193	132,599	127,193	-	132,599
ポイント引当金	268,242	269,906	268,242	-	269,906
店舗閉鎖損失引当金	13,700	41,800	13,700	-	41,800

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
不動産賃貸借契約に伴う 原状回復義務等	456,667	9,352	30,605	435,414
P C B 特別措置法による 撤去費用	2,000	-	2,000	-
合計	458,667	9,352	32,605	435,414

(2) 【主な資産及び負債の内容】

a 流動資産

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	620,730
預金	
当座預金	326,529
別段預金	1,125
預金計	327,655
合計	948,386

売掛金

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社ごうぎんクレジット	56,781
株式会社オリエントコーポレーション	14,703
三菱UFJニコス株式会社	11,455
株式会社ティー・アンド・ジー	10,049
国民健康保険団体連合会	6,955
その他	35,242
計	135,187

ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
133,679	3,301,686	3,300,178	135,187	96.1	14.9

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品

区分	金額(千円)
家庭雑貨・家庭電器	3,253,018
園芸農業・資材工具	6,873,054
趣味・嗜好	1,702,241
その他	360,873
計	12,189,188

貯蔵品

品目	金額(千円)
事務服	3,140
店舗消耗品他	29,626
計	32,767

b 固定資産

建設協力金

相手先	金額(千円)
横野修三	108,204
大和リース株式会社	98,079
株式会社安成工務店	66,613
吉田寛雄	54,943
株式会社コムズ	44,335
その他	627,934
計	1,000,111

敷金

内訳	相手先	金額(千円)
店舗の土地及び建物の敷金	株式会社イズミ	105,921
	峰山商業開発株式会社	73,599
	株式会社フジ	64,171
	株式会社山本林業	60,000
	有限会社ドーム	57,418
	その他	1,387,325
	計	1,748,436
社宅の敷金		24,243
	合計	1,772,680

c 流動負債  
支払手形  
イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
藤原産業株式会社	97,962
ジャペル株式会社	78,282
株式会社藤栄	74,825
有限会社白石高倉商店	55,382
株式会社ヴェルデ	42,135
その他	570,065
計	918,653

ロ 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成30年3月	459,661
平成30年4月	309,305
平成30年5月	149,686
計	918,653

電子記録債務

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
朝日電器株式会社	175,722
中山福株式会社	125,058
アークランドサカモト株式会社	124,717
エコトレーディング株式会社	119,254
J-NET株式会社	91,587
その他	2,205,724
計	2,842,065

ロ 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成30年3月	1,301,230
平成30年4月	984,342
平成30年5月	555,539
平成30年6月	952
計	2,842,065

買掛金

相手先	金額(千円)
ミライフ西日本株式会社	146,325
J - N E T 株式会社	115,597
カメイ株式会社	72,835
エコトレーディング株式会社	61,645
株式会社山善	58,002
その他	1,822,908
計	2,277,314

d 固定負債  
 退職給付引当金

区分	金額(千円)
未積立退職給付債務	2,460,889
未認識数理計算上の差異	32,103
未認識過去勤務費用	22,631
前払年金費用	7,961
計	2,523,586



( 3 ) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

( 累計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当事業年度
売上高及び営業収入 ( 千円 )	12,082,313	23,254,302	33,790,489	43,924,825
税引前四半期純利益金額又は 税引前当期純利益金額 ( 千円 )	464,439	663,784	628,810	325,188
四半期純利益金額又は当期純 利益金額 ( 千円 )	316,766	434,809	418,992	206,920
1 株当たり四半期純利益金額 又は 1 株当たり当期純利益金 額 ( 円 )	39.27	53.91	51.95	25.65

( 会計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額 又は 1 株当たり四半期純損失 金額 ( ) ( 円 )	39.27	14.63	1.96	26.29

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日、2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。 <a href="http://www.juntendo.co.jp/">http://www.juntendo.co.jp/</a>
株主に対する特典	毎年2月末日現在の株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上を保有されている株主の方に対し、Q U Oカード(クオカード)1,000円分贈呈いたします。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第56期)	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日	平成29年5月29日 中国財務局長に提出。
-----------------------------------	----------------	-----------------------------	--------------------------

(2) 内部統制報告書 及びその添付書類	平成29年5月29日 中国財務局長に提出。
-------------------------	--------------------------

(3) 四半期報告書 及び確認書	(第57期 第1四半期)	自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日	平成29年7月13日 中国財務局長に提出。
	(第57期 第2四半期)	自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日	平成29年10月12日 中国財務局長に提出。
	(第57期 第3四半期)	自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日	平成30年1月12日 中国財務局長に提出。

(4) 臨時報告書	平成29年5月30日 中国財務局長に提出。	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の 規定に基づく臨時報告書であります。
-----------	--------------------------	--

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 5月25日

株式会社ジュンテンドー  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 尾 崎 更 三  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 高 山 裕 三  
業務執行社員

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジュンテンドーの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジュンテンドーの平成30年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ジュンテンドーの平成30年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ジュンテンドーが平成30年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。